祝 黒之瀬戸大橋開通50周年

黒之瀬戸大橋開通50周年記念式典が4月9日、長島町の黒之瀬戸だんだん市場駐車場で開かれた。同町にとって渡船時代とは比べ物にならないほどの発展に貢献した橋。これからの未来を築くための架け橋としても期待される。

橋は、阿久根市と同町を結ぶ全長502mのトラス橋。1972年（昭和47年）に着工し、厳しい作業環境の中、約2年かけて完成させた。開通前、同町の瀬戸港と同市の黒之浜港の急な潮流の間を船で渡っていた。島民の悲願であった橋の開通で県本土と陸続きとなったことで、町民生活の向上や医療体制の充実につながったほか、全国有数の養殖ブリの産地として発展。離島であった長島の経済や文化の発展の橋が大きく貢献した。日本道路公団による一般有料道路として供用され、通行料が必要だったが、建設費用の数倍といわれる通行収入を上げ、1990年（平成2年）から無料となった。

島の生活を激変させたインフラ整備

黒之瀬戸大橋開通50周年
記念事業協議会

会長（長島町長）　**川添　健**

黒之瀬戸大橋は、昭和49年4月9日、私たちの地域をつなぐ架け橋として開通しました。その歴史的瞬間から50年が経ち、私たちは感慨深い思いでこの節目を迎えました。

黒之瀬戸は日本三大急流に数えられる海峡であり、古くから万葉集にも歌われた名勝です。瀬戸港の上の岡には長田王（ながたのおおきみ）の万葉歌碑が建てられています。

島の未来を築く大橋

この大橋は、離島であった長島の人々の生活を劇的に変化させました。かつては孤立した存在であった私たち島々は、この橋によって本土との交流が活発になり、新たな未来への扉が開かれ、わが町の交通インフラとしてだけでなく、地域の発展に貢献し、人々の暮らしを支える重要な存在として、黒之瀬戸大橋は多くの方々に愛されてきました。

県の基本構想にもあります三県架橋や地域高規格道路、獅子島架橋と結ぶことで、より良い未来を築いていく責務を果たすべく努力を重ねてまいります。

架橋工事

瀬戸港フェリー発着場

開通式テープカット（長島側）

通行無料化を祝うパレード

～黒之瀬戸大橋の歴史～

- ●昭和21年～昭和49年
  県営フェリー運航
- ●昭和38年10月
  阿久根市・東町・長島町による「黒之瀬戸架橋期成同盟会」結成
- ●昭和44年1月
  黒之瀬戸大橋の着工決定
- ●昭和47年5月20日
  黒之瀬戸大橋起工式
- ●昭和49年4月9日
  黒之瀬戸大橋開通
- ●昭和50年4月1日
  一般国道389号に昇格
- ●平成2年9月21日
  黒之瀬戸大橋通行無料化

【概要】
橋長　502m（トラス橋）
発注者　日本道路公団福岡建設局
施工者　川崎重工業　鹿島建設

長島町建友会

飯尾建設有限会社　代表取締役　大堂　剛
有限会社 梅田水道工事店　代表取締役　梅田　奈保子
久保電器商会　代表者　久保　応一
有限会社 坂元建設　代表取締役　坂元　大輔
有限会社 田渕組　代表取締役　田渕　法祐
株式会社 長崎組　代表取締役　長嵜　直寿
有限会社 福永建設　代表取締役　福永　和寿
株式会社 前田組 長島支店　支店長　増田　智子
有限会社 宮脇建設　代表取締役　宮脇　伸也
株式会社 岩下建設　代表取締役　棚崎　博也
株式会社 川床石油設備工業　代表取締役　増田　公二
有限会社 小嵜型枠　代表取締役　小嵜　秀徳
株式会社 崎川　代表取締役　崎川　逸男
有限会社 段下工務店　代表取締役　宮ノ原　征一
株式会社 浜畑組　代表取締役　古田　義富
有限会社 福山建設　代表取締役　福山　義弘
有限会社 町田建設　代表取締役　町田　千佳行
有限会社 宮脇設備　代表取締役　宮脇　徳仁
有限会社 岩元水道設備　代表取締役　波戸内　和昭
共栄建設株式会社 鹿児島支店　支店長　川原　成満
株式会社 小竹組 鹿児島支店　支店長　永田平　真吾
有限会社 崎口建設　代表取締役　崎口　順一
中村鉄工有限会社　代表取締役　中村　幸二
有限会社 原口林業　代表取締役　原口　元昭
有限会社 藤川産業　代表取締役　鈴木　一平
有限会社 松山建築　代表取締役　松山　謙一
有限会社 山崎水道設備　代表取締役　武元　康一朗
合同会社 上濵建築工房　代表社員　上濵　恵一
有限会社 木場電気商会　代表取締役　木場　盛二
有限会社 小畑建設　代表取締役　小畑　良磨
有限会社 田中建築工務店　代表取締役　田中　健二
株式会社 永岡設備工業　代表取締役　永岡　修世
平田建設株式会社　代表取締役　平田　勝
有限会社 堀元電気商会　代表取締役　堀元　哲也
丸久建設株式会社 長島支店　支店長　坂上　千治
有限会社 レガーレ・ワキタ　代表取締役　脇田　安一